

平成23年(2011)2月1日発行

再発見! 菟原住吉、昔を未来へ
住吉歴史資料館

第3号

本田隆志理事長追悼号

住吉歴史資料館だより



春の日ざしの住吉歴史資料館。本田理事長が足を運ばれたことはもうない。

住吉歴史資料館ご案内

再発見! 菟原住吉、昔を未来へ がコピーです。

開館の目的は、「住吉に住む人々が郷土を理解し、それを子供達に伝え、子供達も郷土に誇りを持ち、ずっと住み続けたいと思うような町にしたい。住吉歴史資料館は文化・歴史的な面からそれをお手伝いする。」ことです。

そのため、以下を行います。

1. 本住吉神社横田宮司家に伝わる古文書の整理、関係文書、記念物、言い伝えの収集。
2. 展示物のメンテ。展示室、座敷を使用しての各種展示の企画。
3. やさしい、楽しいイベントを企画してみんなの地域への理解を深める。
4. 「住吉歴史資料館だより」を通しての広報。成果の発表。



本住吉神社で本殿東から。大正5年(1916)。太平洋戦争で焼け落ちた。

お願い

広くみなさまからの情報、資料のご提供をお願い致します。

1. 各町協議会の古い記録類、書類。旧青年団、警防団の旗 など。
2. 各お家に伝わる古い書類、絵図、古文書 など。
3. 各お家に残っている、農耕具、或いは、馬や牛が牽引する荷車(いわゆる「馬力」)の道具類などの労働具。
4. 古い写真(近所、町内、住吉村、武庫郡、神戸 など)、小学校の卒業アルバム、卒業証書。
5. 災害時の記録や写真。(阪神大水害、阪神大震災、昭和42年水害 など)
6. 戦時中ののぼり、腕章、たすき、或いはバッジ、記念品など。
7. だんじり、住吉祭の写真。(渡御、宮入、宮出し など)

これは一例です。どんなものでも捨てる前に資料館に相談して下さい。貴重な発見があるかも知れません。寄託(資料館で預かりする)、寄贈(資料館に頂く)等、適切な処置を行います。文化財であるとともに個人情報としても適切に取り扱います。

また、長年住吉に住んでこられた方々に気軽にむかひ話をさせていただくことも考えています。ああ、あの人なら、住吉のこと「よお知ってはる」、という方をご紹介下さい。

編集後記

故本田理事長からは、区制60周年のバレードにちなんだ特集を組んでくれ、資料館だよりには、よく撮れている写真を掲載してくれ、と何度か言われておりそのつもりでございました。そして昨年末には第3号として記念特集号が出せたらと思っておりました。

ところが、突然の思わぬ訃報に接し資料館スタッフは絶句呆然としました。遅れてしまった発行ですが、これを理事長追悼号として出すこととして住吉学園の西浦理事長代行専務理事や廣瀬常任理事、灘井事務長の幹部の方々にご理解とご承認を頂き、追悼文を頂き、それで巻頭を飾ることが出来ました。

安政二年のだんじり祭りについては、だんじりバレードの特集号用に既に準備していた原稿です。古文書は横田宮司、木村先生(資料館専門委員、神戸大学地域連携センター)に読誦願ったものです。

乙女塚の話も前々から神戸大学の松下先生(この方も資料館専門委員)にお願いしていたものです。

古い土地柄である住吉を現代に生かすべく故本田理事長は日夜奮闘されてきました。横田宮司編者の「本住吉神社詳誌」も住吉、或いは本住吉神社のただごとではない由緒を皆に知ってほしいという故理事長の熱意から発刊にこぎつけたものです。資料館に在庫がありますのでご要望の方はどうぞ申し込んで下さい。友の会入会なら特別価格でお分けできます。

資料館だよりは、いつも故理事長に原稿を上げ見てもらって発刊して来ましたが、さて、第3号の内容はOKでしょうか。「追悼号なんかいらんは!」の声が聞こえそうです。でも、内容についてはきっとOKです。本田さん。(M.U.記)

■資料館の開館日は毎週木曜日の午前中です。

また、別途、日曜日は展示室を開館しています。(世話人会の委員の方がお世話)

■資料館の座敷ではお茶会が「菟原茶華道会」主宰で開催されます。

平成23年は3月13日(日)・5月8日(日)・7月10日(日)・9月11日(日)・11月13日(日)の各日曜日です。

住吉歴史資料館事務局 本住吉神社内御本殿西 〒658-0053 神戸市東灘区住吉宮町7丁目1-2 fax専用078-201-3738 メールアドレス shiryoukan@ris.conet.ne.jp

本田隆志理事長と住吉歴史資料館

住吉学園理事長代行専務理事 西浦 豊

資料館だより第3号目次

本田隆志理事長と住吉歴史資料館	西浦 豊
住吉学園理事長代行専務理事	西浦 豊
江戸時代末の住吉祭、安政二年のだんじり	事務局 3ページ
平成22年の成果	事務局 6ページ
住吉各学校合同お茶会と水車写真展	事務局 7ページ
東求女塚古墳と菟原乙女伝承(1)	事務局 7ページ
……神戸大学地域連携センター・資料館専門委員 松下 正和 9ページ	

「資料館だより第3号」は昨年十二月二十八日急逝された本田隆志理事長追悼号とします。誰がこんなことを予想したでしょうか。この「資料館だより」で本田理事長とのかかわりを述べるのが、何よりも資料館を愛した理事長への供養と思ひ編集しました。

住吉歴史資料館は、本田理事長が理事在任中の平成十三年住吉神社御鎮座千八百年の記念事業として発案し、当時の理事会で承認、創設されたものです。平成十九年に理事長に就任されましたが、一貫して、資料館を住吉の歴史文化の中心とするべく種々の事業を企画実行されました。

その中でも、「だんじり本 菟原・住吉」平成十三年、並びに「住吉歴史年表」平成十九年の編集は理事長自ら企画発行されたものです。

また、例年十月の住吉町内小学校中

学校児童生徒によるお茶会も本田理事長が発案し、今に至っているものです。平成二十一年四月からは資料館事務局がその事業を受け継ぎ現在に至っております。資料館は住吉に関連する資料を集め、わかりやすい「新住吉村誌」の編集を目標としています。

当追悼号に掲載する以下の記事は、いずれも生前本田理事長が資料館に何度も足を運ばれ、そのおりに語っておられた夢、或いは実績にちなむものであり、天にある理事長の御霊にもきくとご覧頂いてもよいものと確信します。

【平成二十二年度をふり返す】
資料館の事業の成果をまとめました。本田理事長のご支援で成し得たものはかりです。

【東求女塚古墳と菟原乙女伝承】

神戸大学地域連携センター・資料館専門委員 松下正和先生執筆。
理事長は、菟原乙女(うないおとめ)の

悲しい恋の物語をアニメに出来ないかと何度も言われていました。

〔平成二十二年十月二十四日開催の資料館座敷でのお茶会写真〕

理事長ご在世中の最後のお茶会となりました。例年、楽しそうにお茶を召し上がる理事長でしたが、今年はいにお姿を見ることはありませんでした。

〔江戸時代末のだんじり祭〕

事務局編平成十三年に本田理事長が購入を決断し、住之江地区が保有している古文書の中に江戸時代の末、安政二年（西暦千八百五十五年）の祭りに関するものがあり、宮入順序などの祭りの様子がわかります。

〔住吉学園創立六十周年記念会写真〕

平成二十二年七月十八日、六甲アイランドのプラザホテル神戸で開催。

〔東灘区制六十周年記念東灘だんじりパレード写真〕

本田理事長の指導のもと住吉学園、住吉地区が総力を挙げてバックアップしたものです。理事長はいい写真は是非、資料館だよりにのせてほしいといわれていました。平成二十二年十月十日。

資料館の事業や作業はやつと軌道に乗りがかったところです。本田理事長の遺志を引き継ぎ地道に進めていきたいと考えております。ここに、改めて哀悼の意を表します。



処女塚故事（「播磨名所巡覧図会」より）

暗示しており、生田川で入水自殺したとする『大和物語』とはこの点で異なっています。おそらくは、『大和物語』に登場する女が死ぬ際に詠んだ歌「すみわびぬわが身投げてむ津の国の生田の川は名のみなりけり」（この世に生きてゆくのがつらくてたまらない。我が身をこの川に投げてしまおう。生田川というその名も名ばかりのことだったと聞わって「生田川」の「生く」とは名ばかりで、入水自殺をせざるをえなかった女と、この世は「生きにくい」という物語の構図から、生田川での入水自殺というモチーフが生まれたのでしょうか。これ以降、三人の物語の舞台は生田川近へと移っていきます。例えば、鎌倉中期から後期の軍記物語である『源平盛衰記』には、

千代に替らぬ翠は雀の松原 みかげの松 雲井にさらす布引は 我朝第二の瀧とかや 業平中將の彼瀧に 星が川辺の蛭かと 浦路遙に詠めけむ 何所なるらむ覺末な 求塚と云へるは、恋故命を失ひし二人の夫の墓とかや：（巻第七実定上洛の事）

千代に替らぬ翠は雀の松原 みかげの松 雲井にさらす布引は 我朝第二の瀧とかや 業平中將の彼瀧に 星が川辺の蛭かと 浦路遙に詠めけむ 何所なるらむ覺末な 求塚と云へるは、恋故命を失ひし二人の夫の墓とかや：（巻第七実定上洛の事）



住吉学園役員60周年記念写真



住吉学園創立60周年記念会での理事長ごあいさつ



10年ぶり、住吉川に並んだ東灘区28台のだんじり



生田川にて水鳥を射る（「摂津名所図会」より）

たことが原因で、地獄にて苦しむ処女の様子が描かれています。『源平盛衰記』では男の墓を「求塚」とし、『太平記』や謡曲「求塚」では女の墓を「求塚」としています。古代で「処女墓」「壮士墓」と男女で呼び分けられていた墓の名が、ともに「求塚」と混同して呼ばれるようになったと思われる。しかも、その場所はいずれも生田川（生田川・生田森・生田里）に当たっているかのようです。これは、女が生田川で入水自殺するという『大和物語』でのモチーフが影響しているとみてよいでしょう。

たことが原因で、地獄にて苦しむ処女の様子が描かれています。『源平盛衰記』では男の墓を「求塚」とし、『太平記』や謡曲「求塚」では女の墓を「求塚」としています。古代で「処女墓」「壮士墓」と男女で呼び分けられていた墓の名が、ともに「求塚」と混同して呼ばれるようになったと思われる。しかも、その場所はいずれも生田川（生田川・生田森・生田里）に当たっているかのようです。これは、女が生田川で入水自殺するという『大和物語』でのモチーフが影響しているとみてよいでしょう。



来賓席での「鏡割り」



区役所前来賓席での本田理事長

■語り継がれた東求女塚古墳

『万葉集』では、「永き代に標にせむと遠き代に語り継がむと処女墓中に造り置き壯士墓此方彼方に」と歌われ、永久に記念にしよう、遠い未来まで語り継ごうとこの三古墳が造られたと紹介されています。もちろん、実際には古墳が築かれた年代と万葉集が編まれた時代とは三〇〇年以上の隔たりがあり、この三古墳の被葬者はヤマト王権と密接な関係を有する地元の有力な豪族と考えられ、史実としては、残念ながら免れぬ。ただ、地元で語り継がれた伝承が、万葉の歌人によって取り入れられ、中世の文学や近世の地誌にも紹介される全国的にも名所として流布する一方で、地元の人々によっても語り継がれ、また近代以降の度重なる墳丘の削平にも耐えながら守られてきた古墳が東求女塚古墳です。万葉の時代から住吉に残るこの屋敷処女伝説を一人でも多くの方に知ってもらい、「遠き代に語り継ぎ」いでいただければ幸いです。

て命を絶ちました。あとに残された菟原壮士は、負けてはいられないと天を仰いで叫び、地団駄をふみ、歯がみをして猛り狂い、刀を握りしめ、二人の後を追いました。

このような三人の死をなげき悲しんだ親族が寄り集まり、永遠のしるしとして、また遠い未来まで語り継ごうと、菟原処女の墓を真ん中に、千沼壮士と菟原壮士の墓をその両側に造って葬りました：

菟原とは現在の芦屋市、東灘区、灘区あたりをさす地名で、菟原処女はそこに住んでいた若い女性をさします。菟原は「うばら」「うばら」とも読みました。千沼とは現在の大阪府南西部、泉州あたりで千沼壮士とはそこに住んでいた若い男性のこと。



住吉村の絵図にみえる「乙女塚(東求女塚)」

菟原壮士は女性と同じ地域に住んでいた男性をさします。

反歌(巻第九一八一一)では、菟原処女の墓の上の木の枝が千沼壮士の墓の方になびいているので菟原処女は千沼壮士の方に想いを寄せていたのだろう、とあります。長歌

に、死んだ菟原処女が千沼壮士の夢に先に現れたとあることから、住吉の皆さんにとっては残念なことに、菟原処女は菟原壮士よりも千沼壮士の方が好きだったようです。この伝承の背景には、和泉の信太地域と菟原の葦屋地域との密接なつながりがあったことと関連すると思われる。たとえば、平安時代の諸氏族の系譜を集めた『新撰姓氏録』によれば、和泉国の諸蕃(渡来系氏族)の中に、和泉郡信太郷の地名にもとづく「信太首」という氏と、菟原郡葦屋郷の地名にもとづく「葦屋村主」という氏が見えることから、両者の地域的なつながりがうかがえます。

複数の男性からの求愛に板挟みとなった乙女が自殺をするという物語自体は、『万葉集』では他にもあり、実は珍しいものではありません。し



東明・処女塚にある田辺福麻呂歌碑(「古の小竹田壮士の妻問ひし菟原処女の奥つ城ぞこれ」)

かし、この菟原処女をめぐる物語は神戸の海岸部に古くから伝わる話だったと思われる。万葉集の歌が編まれた奈良時代、都と九州の太宰府を結ぶ古代山陽道が海岸沿いに通っていました。そこを行き交う人々は、道沿いに造られた三つの古墳をいつしかこの物語のモニュメントとみなしたのでしょう。また、この三つの古墳は、いずれも当時の海岸線に近く、海上からもよく見えていたと思われる。

菟原処女をモチーフとする歌は、高橋虫麻呂だけではなく、田辺福麻呂や大伴家持によっても作られており、当時の宮廷では有名な題材でした。ただ、菟原処女の墓の両側に男性の墓(「壮士塚」)があるとすることで、東求女塚古墳が男性の墓であると、奈良時代に認識されていたかどうか

■中世文学作品の題材としての「求塚」

その後菟原処女をめぐる物語は、中世文学作品のテーマとして取り入れられていきます。たとえば、平安時代中期の歌物語である『大和物語』では、津の国「むばら」の男と和泉国の「ちぬ」という男が、「津の国に住む女」をめぐる争う話が登場します(一四七段)。困った女の親が「生田川に浮く水鳥を射当てた方に娘を差しだそう」と言い、二人の男はその提案を喜んで受け入れ勝負をおこないました。一人の矢は水鳥の頭の方に、一人の矢は尾の方に当たり勝負は引き分けに。思い煩った女は、生田川に身を投げて死にました。二人の男性も水中に身を投じ、一人は女の足をつかまえて、一人は女の手をとらえて死んでしまいました。男の親たちが来て、女の墓の左右両側に墓を造って埋めたとあります。その墓は、「いまもあなる」(現存する)と伝えています。『万葉集』の大伴家持の歌(巻第九一四二二)では、菟原処女が「海辺に出で立ち」とあることから海で水自殺したことを

江戸時代末の住吉祭、安政二年のだんじり

事務局 内田 雅夫

昨年十月十日には東灘区のだんじり二十八台が繰り出され、六十周年をお祝いしました。本住吉神社氏子地区のだんじりも参加しました。

これだけたくさんのだんじりが東灘区にはあるのですが、一体いつごろからだんじりがお祭りに出るようになったのでしょうか。

江戸時代末ごろの安政二年(千八百五十五年)の記録が住之江地区に保存されており、それにより、本住吉神社の祭礼の様子、だんじりの引

き出しの様子がどんなものであったかがおおよそわかります。記録の名前は、「安政二年卯六月 御輿幸記録」といいます。

今回は、この記録からわかることを書いて見ることにします。

安政二年は明治維新の十三年前。この三年後に日米通商条約が結ばれる。兵庫の港はまだ開港していない。ペリーの黒船が五年前に現れればち幕末のさわがしい世の中になる頃。

記録の内容

・安政二年、住吉神社は旧暦六月晦日(みそか、月末の日)の日に大祭を行った。(現在の太陽暦では千八百五十五年八月九日にあたる)

・祭礼の様子については住吉村が記録を作り、吉田家の三名の名前、住吉村各町、庄内各村の世話人が名前を連ねて大坂にいる代官白石忠太夫に報告されていた。当時、住吉村は天領(徳川幕府の直接の領地)だった。

・大祭には、御神輿(おみこし)の巡行があった。

・御神輿は住吉村、野寄村、岡本村、田中村、横屋村、西青木村、魚崎村の各村が年番で昇っていた(かいていた)。

・御神輿は住吉山田之町には従来巡行がなかった。これについて従来より山田之町は巡行を希望していた。

・若宮講と呼ぶ講があった。

・この年は住吉村が、御神輿の昇き番(かきばん)であったが、若宮講の



古文書



「右左モ有馬道」道標現状。山手幹線住吉山手交番付近。



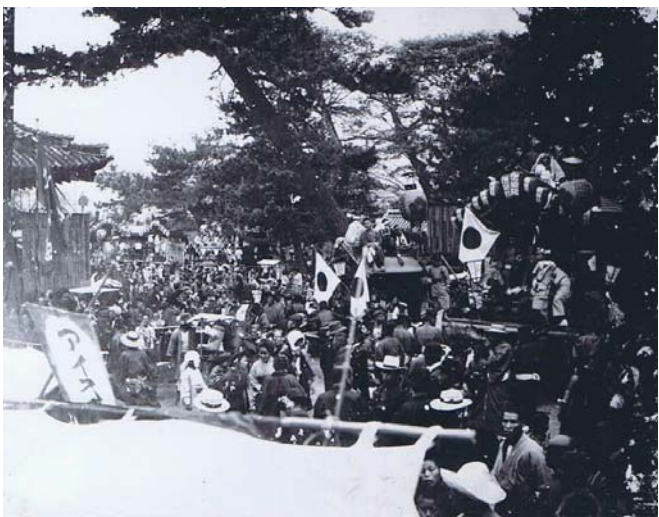
「右左モ有馬道」の道標。1969年頃。この右側の道が東の車道筋。

計らいで山田之町までの御神輿の巡行についてどうするか村役人衆がまじり神社でつらいをした。

・古い結果、住吉の神々は、やれ、とおっしゃった。そのため、御神輿の順路は東の車道筋とし、途中の「小墓」の東には「しめ縄」を張って山田まで御神輿をかついて行った。特

に事故や不都合もなく大成功に終わり、以後住吉村が御神輿の昇き番のときは山田までの巡行を定例化することになった。現在の小林墓地の他に「小墓」と呼ばれる墓地があった。現在は無い。

・東の車道筋と言われる道が南北に通っていた。(前ページの写真)



明治30年ごろの宮入り後の写真。空、山田、住之江子供、住之江親、呉田親、呉田子の各だんじりが写っている。「みかげの松(先代)」の左と右にせいぞろい。手前の盛台にはすでに「アイスクリーム」ののぼり、ハイカラな神戸近郊の住吉村。横田宮司所蔵写真。左ページのアップの写真は酒井清氏所蔵アルバムより。

・御神輿は馬場先大海神社まで渡御していた。「ばばさき・たいかいじんじや」は現在の御旅筋のダイエーの場所のあたりにあった。

・大祭には御神輿のほかに「楽車」が引かれていたようであった。これが、だんじりと思われる。

・氏子の住吉村の各町、野寄村、岡本村、田中村、西青木村、横屋村、魚崎村が「楽車」を持っていた。

・各村の「楽車」の巡行には「宮入順番」、「宮より地元へ引き取る順番」、「浜行の順番」、「浜より引き出す順番」が定められていた。

・この順番は安政二年の前の年、すなわち嘉永七年(千八百五十四年)に定められた。

・「楽車」の宮出は、ちようど、御神輿の大海神社からの神社へのお戻りのタイミングと重なり、そして御神輿は差し上げたまま進むので、宮出しする「楽車」のうち、一番目の魚崎村と二番目呉田之町の「楽車」は御神輿の通過の邪魔にならないように引き出すよう事前に注意されていた。

以上が古い記録からわかることで

す。現在まで残っているしきたりもありもうなくなってしまうものもあります。

記録からわかること

・明治時代の中ごろまで本住吉神社の祭礼は旧暦の六月三十日(太陽暦では八月ごろ)に行われていたが、何度かの変更により現在は太陽暦の五月四日と五日になっている。

・祭りに参加する楽車は住吉以外にも庄内からも来ていた。庄内とは現在の本山のうち野寄、岡本、田中、そして魚崎と横屋、本庄のうち西青木。庄内の楽車は浜街道(43号線ぞい)を通り住吉川を越えお旅所(現在の呉田会館のあたり)まで来て住吉の楽車と合流し宮入りに向かっていたようだ。

・これらの楽車の行動順序を慎重に検討してみると、宮入り後の神社境内での楽車の止まっている位置も特定できると思われる、これは次回に書く。

・宮入、宮出などの順序は昭和四十二年までの「だんじり」の宮入の順序にほぼ同じと言える。昭和八年(千九百三十三年)の巡行記録が「本住吉神社誌」(横田宮司著)に掲載されており、次回でくわえて見ることにする。非常に興味深い。

東求女塚古墳と菟原処女伝承(1)

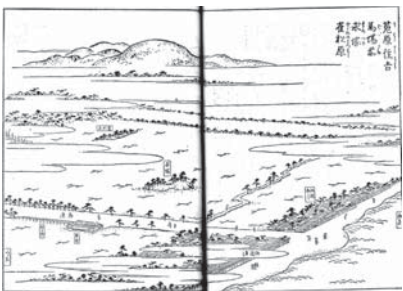
神戸大学地域連携センター
住吉歴史資料館専門委員

松下正和

■求女塚東公園の中にある古墳
阪神住吉駅と住吉川の間に位置する求女塚東公園。公園の真ん中にある小山に「求女塚之碑」が建っているのをご存じでしょうか?今から一六〇年以上も前の四世紀後半に、前方後円墳という形の古墳がこの場所に造られました。古墳というのは、その地域を治めていた豪族のお墓で、三世紀中頃から七世紀にかけて造られました。位が一番高い人は、前方後円墳や前方後方墳といった、上から見ると鍵穴のような形の古墳に葬られました。



東求女塚古墳(求女塚東公園)



「摂津名所図会」にみえる求塚

あの小山が古墳なの?と不思議に思われる方もいらっしゃるでしょう。明治初年までは墳丘が残されていたが、その後墳丘は削り取られてしまいました。神戸市立遊喜幼稚園の敷地が前方部のあたりに、求女塚東公園が後円部のあたりとなっております。

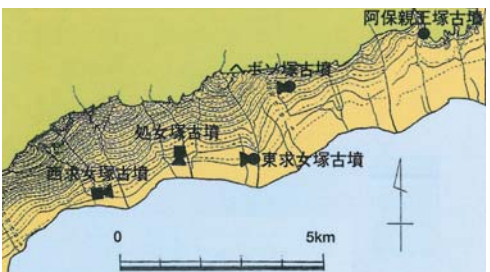
この古墳は、かつては「呉田の求女塚」、あるいは「東之女塚」と呼ばれ、現在では「東求女塚古墳」と呼ばれています。灘区都通の西求女塚古墳、東灘区御影塚町の処女塚古墳とともに、菟原処女をめぐる悲恋伝説にゆ

かりのある塚として古来よりとても有名でした。その伝説は、二人の男性からの求愛に板挟みとなって苦しみ命を捨てた菟原処女の悲しい恋の物語です。東求女塚古墳には、いったいどのような物語が託されてきたのでしょうか?まずは皆さんを万葉の時代に誘うこととしましょう。

菟原処女の伝説

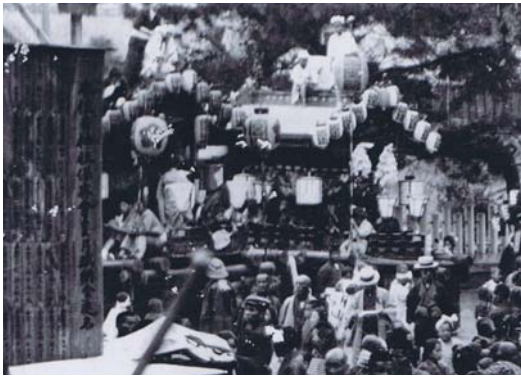
奈良時代に大伴家持がまとめたとされる歌集『万葉集』には、この古墳をめぐる伝説として八首が歌に詠まれています。高橋虫麻呂の長歌(巻第九一―八〇九)を例に簡単に紹介しましょう。

葦屋(葦屋郷、現在の芦屋市から神戸市東部にかけての地)の菟原処女は隣の家の人にも顔を見せないため、一目見たいという若い男性が殺到し、垣のように彼女の家を取り囲んで求婚しました。中でも、千沼壯士(別名、小竹田壮士。和泉国和泉郡信太郷の男子)と菟原壮士(菟原郡の男子)は求愛に熱心で、武器をとり、彼女のために水の中でも火の中でも激しく闘いを繰り広げました。



三つの求塚(「神戸の古墳」(神戸市教育委員会)より)

その様子を見て思い悩んだ菟原処女は、お母さんに「私のようなものために、二人の男性が激しく争うのを見るのはとてもつらいことです。このまま生きていたとしてもこの世では祝福されて結婚できそうにありません。あの世に行って待っています」といって、自ら命を絶ちました。その夜、千沼壮士の夢に女性があらわれたため、千沼壮士はすぐさま後を追っ



空と山田のだんじりアップ。左が空。提灯は「宮北」、右が山田。提灯の漢字はむずかしい篆刻字(てんこく)



呉田の親とその奥の子のだんじりアップ。こま提灯の紋は本住吉神社の梧楼紋(きぎょう)だが丸のなかに描かれている。いわゆる「丸に梧楼」



住之江の親と子供のだんじりアップ。当時は「仲」之町。この漢字も篆刻で難しい。「みかげの松」の南側に停止するさまりであった。

・御神輿の巡行は、現在はなくなっており、替わって鳳輦の渡御が行われ御旅筋を真っ直ぐ下り御旅所までの往復が渡御ルートになっている。

・江戸時代に御神輿が庄内にも巡行していたかどうか、していたとしたらそのルートはどうなのかはわからない。

・御神輿は各村が年番交代で昇っていたようで、住吉村の当番のときでも安政二年までは山田区までは上がった

てこなかったようである。

・「小墓」とは住吉村の墓地の一つで、現在はなく、場所は住吉山手交番のあたり。ここには瀬川(うそがわ)という清流がながれ、極楽橋がかかって、小墓の入り口にあったお地蔵様六体の一つが空地区会館のお地藏さまといわれている。(住吉村誌記事)

・東の車道筋とは現在の有馬道で空区の石碑「右モ左モ有馬道」の右側の

道と思われる。

・「楽車」が現在でいう「だんじり」とかと思われる。

・村の支配は「年寄」三名が統轄していたようで、文書では名字を名乗っている。いわずと知れた「吉田」である。三名以外は町代(各町に二或いは二名)並びに世話方というひとびとが各町におり取り仕切っていたようである。これらは署名しているが名字はない。

・若宮講というのは現在はない。いろいろな講があったようだ。例えば、伊勢まいりのための伊勢講、とか大峰山まいりのための大峰講など。

・祭礼記録は住吉村が代官に報告しており、庄内の各村の世話方の名前は記録にはない。



お茶を待ちます



さて、はじまります。今日の一番の住吉小



くつろいで笑顔が



向こう側のお点前を見る ひやかさないで!



では頂戴致します



廊下側にはご父兄が



お点前をすずかに待つ



足がしびれたかな



男子にはちょっと窮屈かな?



中学生はちょっと大人の雰囲気です



七五三の男子がメインゲストです



七五三のおまいりのご家族をご招待

平成22年の成果

資料館二年目、事業が浸透、資料、写真など集まる

江戸時代の記録の解読を続ける
資料館では神戸大学地域連携センターのご指導により横田宮司家所蔵の村方文書の目録作成を継続しておりこの三月には完成する目標と取り組んでいます。

めずらしい写真、資料も

平成二十一年四月より資料館事業作業を開始し二年経過、住吉町内に資料館の存在が浸透して来て、多くの資料、写真が資料館に提供されました。

明治から大正時代のもの、住吉ゆかりの人たちの肖像画

資料館だより第二号で紹介した、呉田の地名「新兵衛新田」開発者山内新兵衛さんのご子孫のかたからの肖像画に続き、第十三代江戸浅草弾左衛門の肖像写真の提供がありました。

西国街道の写真

鳥居にあった大きな「相撲松」の写真、神社所有写真とは別アングル、二号線が出来る前の住吉神社鳥居前の風景、西国街道の様子がわかる新しい発見。

昔の宣伝チラシの発見

住吉村の呉服店、八百屋さん、酒屋さんのきれいな版画刷りのチラシ引

き札」が大量に見つかりました。御影村のものも。



引き札 住吉茶屋之町八百丑、宮西茶屋区にあった八百屋乾物屋さん

開発される前の山と海、それに住吉の街並み、水車の写真が見つかる

昭和三十年代（一九六〇年代）のなかしい住吉の山海、街並み。それに大正から昭和にかけての住吉谷の水車関連の写真資料が見つかりました。水車研究にはきわめて貴重な発見です。

戦時中の資料

住吉村が献納した陸海軍機、戦時中の茶屋区警防団活動のものなど。また、焼夷弾不発弾、防空鉄かぶと、頭巾なども寄託されています。

住吉村誌の原稿を確認

我々の事業作業の基本である昭和二十一年住吉村誌の原稿が住吉学園理事長室書棚に保管されている事を確認しました。かろうじて、空襲で焼けずに残ったものです。

聞き取り調査を継続

住吉に長く住まいされる方々にお話を聞き取りしています。住吉小学校百周年事業に携わっておられた旧職員の方、山田区、茶屋区、空区の方々にお話を聞きすることができました。

工のさきがけ、住吉谷の水車の写真展を恒例十月お茶会で

専門委員会 木村先生の監修指導による、写真展（住吉谷の水車展）を資料館会議室で開催しました。今年発見した貴重な写真を展示し主に小学生に展覧しました。

恒例の十月お茶会では百名を超える小中学生、父兄、先生方に参加頂きました。アンケートも実施。資料館の存在が、お役に立っていることを知りました。

平成二十三年に向けて

木曜開館三年目、資料館専門委員会では、大阪市立博物館所蔵江戸時代の住吉吉田家文書の解読分析を考えております。聞き取り調査、資料写真の収集も継続します。



白鶴美術館の今。平成22年(2010)



白鶴美術館下にあった水車 昭和9年(1934)ころ(嘉納氏所蔵)

住吉各学校合同お茶会と

水車写真展

水車写真展



水車工場の模型と石臼の実物



展示会場



一般の見学の人たち



見学の中学生

住吉各学校合同お茶会



はきものが整頓された玄関



神社の境内に集合



お点前をしていた



お茶の説明をしていた

平成二十二年十月二十四日(日)に住吉小学校、住吉中学校、渦が森小学校そして附属中学の合同お茶会が開催され合計百十一名の参加を得ました。子供たちのアンケートでは、美しい日本の座敷、庭を前にお茶を味わうことができます。ばらばらしい着物を着てみたいなどの意見や、水車展では、住吉川にこんなたくさん大きな水車があったことを初めて知ったとの感想が寄せられました。